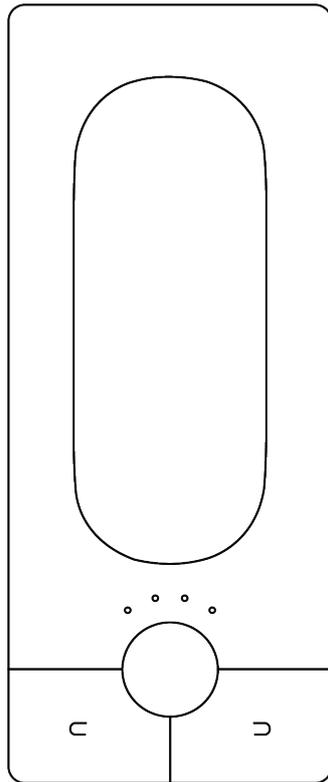


E X P R E S S I V E E

t  u c h é

Touché ユーザーマニュアル

Expressive E / 株式会社フックアップ



HOOK UP, INC.

イントロダクション

このたびは、Expressive E Touché / Touché SE をお求め頂き、誠にありがとうございます。

Touché は、最先端の発想と優れた技術による新感覚のコントローラーです。使い慣れた鍵盤と併用することで、より直感的で確かな感触と高い表現力の演奏を提供します。

Touché の接続は多彩です。コンピューターと接続してソフトウェアを柔軟に操ったり、使い慣れたハードシンセに新感覚の操作を加えたり、モジュラーシンセにモダンなコントロール性を融合して新次元のシステム構築と演奏を可能にします。

※ Touché SE はコンピューターとの接続のみに対応しています。

Expressive E / 株式会社フックアップ

免責事項

Expressive E および株式会社フックアップは、可能な限り本マニュアルに記載しているすべての情報を信頼できるものとして記載することに努めていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本マニュアルの記載内容は予告なく変更が加えられる場合があります旨をご了承下さい。Expressive E および株式会社フックアップは、現地法律による請求なしに本マニュアルにおける責務を拡張しません。なお、本マニュアルは、製造者の同意なく、いかなる場合においても形式を問わず、そのすべてあるいは一部を転載、複製することはできません。

株式会社フックアップ

東京都台東区上野 1-2-2 信井ビル別館 3F

Expressive E 製品に関する詳細または最新情報はウェブサイトに記載しております：

<https://hookup.co.jp/products/expressive-e>

ライセンス規約

以下、Expressive E のハードウェアとソフトウェアをご利用頂くためのライセンス規約となります。インストール前にご確認下さい。

- Expressive E 製品のライセンスは、シングルユーザーライセンスとなります。
- ソフトウェアの入手とアクティベーションを行うにはインターネット接続が必要です。
- 製品のインストールとアクティベーションを行なった場合、本ライセンス規約に同意したことになります。
- 本規約にご同意頂けない場合、全てのインストールと登録作業を中止し、弊社サポートまでご連絡下さい。

目次

はじめに	2
免責事項	2
ライセンス規約	2
安全にご利用頂くためのガイドライン	5
メンテナンスについて	5
同梱物	6
イントロダクション	7
ダウンロードとアップデート	7
インストール	7
Touché	8
概要	8
Touchéとは	8
スレーブとスタンドアロン	8
デフォルトの挙動	8
メカニズム	9
コンセプト	9
シフティング	9
スキン	10
シリンダー	10
スライダー	10
コントロール	11
ボタン	11
エンコーダー	11
LED	11
接続	12
ポート	12
データ	13

Lié	14
概要.....	14
Liéとは.....	14
システム条件.....	14
プラグイン形式.....	14
インターフェイス.....	15
メニュー.....	15
設定.....	16
ブラウザ.....	17
スロットセンター.....	18
プラグインプリセットの設定.....	19
ハードウェアプリセットの設定.....	20
メモリビュー.....	22
スコープ.....	23
感度カーブエディター.....	24
ワークフロー.....	25
DAW設定.....	25
Ableton Live.....	25
Logic Pro.....	26
Cubase.....	27
プリセットの作成.....	29
感度の調整.....	31
パラメーター.....	31
トップとボトムシフティング.....	31
レフトとライトシフティング.....	31

安全にご利用頂くためのガイドライン

安全にご利用頂くために以下の事項を熟読の上、従って下さい！
電気機器を正しく扱う際の注意点です。人体や機器の損傷を防ぐための注意点でもあります。

- 本製品は屋内での使用のために設計されています。湿気の無い環境でお使い下さい。
- スイミングプールの近くや浴室など湿度の高い場所では使用しないで下さい。
- 極端に汚れた環境やホコリの多い場所では使用しないで下さい。機器の外装保護の観点でもそのような環境でのご使用は避けて下さい。
- 機器に極端な振動を与えないで下さい。
- 長期間使用しない場合は、機器の接続を外しておいて下さい。
- コップ等の液体を含んだ物体を機器の上、あるいはその近くに置かないようにして下さい。
- 不用 / 不明物が本体内に混入していないことをご確認の上、使用して下さい。不用 / 不明物の混入を発見した場合、電源を切り、接続を外し、お近くの取扱店あるいは弊社に修理をご依頼下さい。

想定外、あるいは目的を逸脱した使用方法によって発生した機器損傷は保証規定の範囲を超えたこととなります。また、Expressive E および株式会社フックアップはそのような使用による事故、損害に対する責務は負いかねますことをあらかじめご理解下さい。

メンテナンスについて

- 修理に関する全ての作業は弊社認定の専門技師によって行われます。
- 本製品の外装をクリーニングする際は、乾いた柔らかい布またはブラシをお使い下さい。
- クリーニング用の化学物は外装に損害を与える可能性があります。

修理に関する情報はこちらをご覧ください：<https://hookup.co.jp/support/>

同梱物

Touché / Touché SE のパッケージには以下のものが含まれています：

- 本体
- USB ケーブル
- クイックスタートガイド
- テクニカルガイド *
- MIDI アダプター (2本)*
- アースループアダプター *

*Touché SE には含まれません。

同梱物が不足している、もしくは異常があると思われる場合は、販売店または弊社まですみやかにご連絡下さい。

イントロダクション

ダウンロードとアップデート

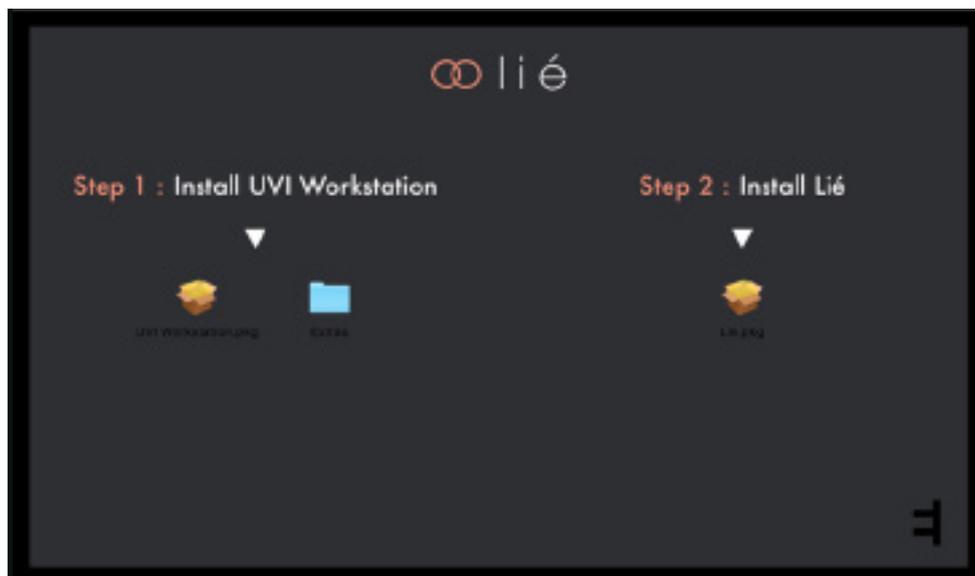
Touchéには専用のソフトウェアLiéが用意されています。Liéとハードウェア本体を正しく接続して扱うには、ファームウェアアップデートが必要な場合があります。

まず、<https://www.expressivee.com/login> にアクセスし、最新バージョンのLiéをダウンロードします(要ログイン、初回時は“CREATE AN ACCOUNT”をクリックし、新規アカウント作成を行って下さい)。

インストール

Liéのダウンロードが完了したら、フォルダを展開し、Lié.dmg (Mac) Lie.exe (Win) をダブルクリックします。

マウント後、次の画面が表示されます：



- **ステップ 1:** UVI Workstation.pkg - 付属のUVI Workstationおよびカスタム音色を扱うためのソフトウェアです。ダブルクリックしてインストールを行います。
- **ステップ 2:** Lié.pkg - Liéをインストールするためのパッケージです。

インストールはとても簡単です。ファイルをダブルクリックし、インストールガイドンスに従って作業を完了します。Liéは、VST/AU互換のDAW内でプラグインとして、もしくはスタンドアロンのアプリケーションとして起動することができます。

Touchéの電源投入 (USBケーブルの接続) は、必ず水平な場所に置いて行いましょう (電源投入の度に、Touchéはポジションリセットとキャリブレーションを行います)。完全に起動するまではスキンに触れないようにして下さい。

ファームウェアアップデートが必要となる場合は自動的にそのことを示す画面に切り替わります。アップデート内容はLiéインストーラーに含まれるPDFガイドに詳細が記載されています。

これでTouchéを実際に触れる準備ができました。

Touché

概要

Touchéとは

Touchéは、ハードウェアあるいはソフトウェアシンセサイザーの演奏に新しいアプローチを与える「楽器」です。サウンドを直感的に操り、強力かつ自然な変化と表現力をもたらします。

Touchéはシフティングと呼ばれる、上下左右4方向の操作で音源を操ります。その感度は極めて高く、そっと触れた程度の圧力でも正確にコントロール信号に変えることが可能です。

このことにより、Touchéは単なるコントローラーの枠を超え、様々な音楽表現に挑むことができます。強烈なスライド、微細なビブラート、パーカッシブなタッピング等、その可能性に限りはありません。特筆すべきは、シンセパラメーターとシフティングの連動に関する設定がとても簡単に行える点です。

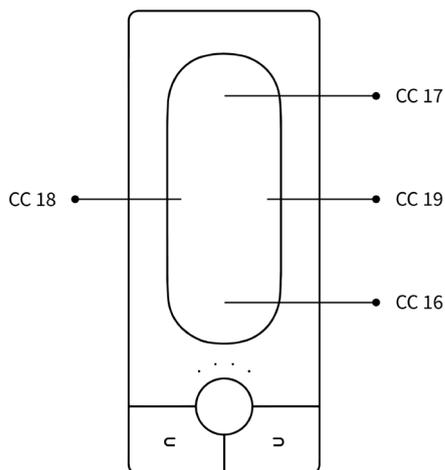
スレーブとスタンドアロン

Touchéは、専用ソフトウェアのLiéを介したスレーブモード、そして単体動作のスタンドアロンモードで扱えます。

- スレーブモード: Touchéをコンピューターと繋ぎ、Liéを介してソフトウェアシンセサイザーやハードウェアシンセサイザーを操作します。この際の設定や挙動は、すべてLiéに準じます。
- スタンドアロンモード: Touchéを単体で利用できるモードです。この際の設定や挙動は、あらかじめ本体に保存しておいたプリセットを使用します (Touché SE に内蔵メモリはありません。通常はコンピューターと接続して使用します)。

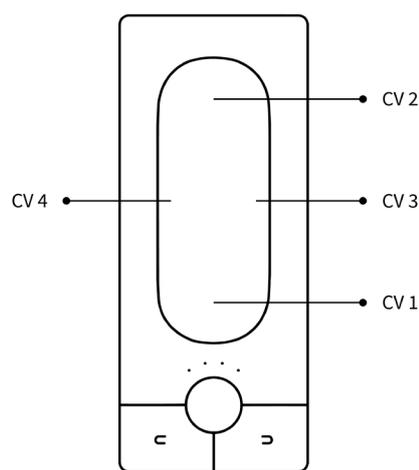
デフォルトの挙動

ファームウェアアップデート直後のTouchéは、以下の設定になります:



USBとMIDI*

トップ: CC17、ボトム: CC16
レフト: CC18、ライト: CC19



CV* - 0/+5V

トップ: CV2、ボトム: CV1
レフト: CV4、ライト: CV3

*Touché SE ではCVを扱うことはできません。また、MIDIアウト端子は備わっていません。

メカニズム

コンセプト

Touchéは、本体上部のスキンと呼ばれるタッチパネルの上下左右への圧力やジェスチャーに反応します。

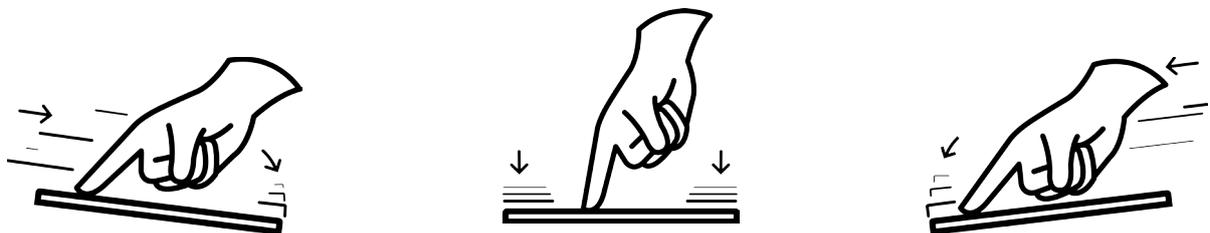
これらの情報を正確に捉えるため、演奏前にキャリブレーションが必要です。これはTouchéに電源が投入される際、自動で実行されます。この際、Touchéはしっかりした場所に置き、キャリブレーションが完了し起動するまで動かさず、スキンにも触れないようにします。

シフティング

Touchéのスキンに触れ、上下左右に操作することを「シフティング」と呼びます。トップまたはボトムシフティングに関しては、スキンの上端または下端に指で力を加えることで値が適用され、連動したパラメーターに変化を与えます。また、スキンの中間を押した場合、トップ/ボトムの両方を同時に操作可能です(さらに左右いずれかにスライドさせることで、最大3方向のシフティングを組み合わせられます)。スキンから手を離すと、パラメーター値は自然にデフォルトの状態に戻ります。

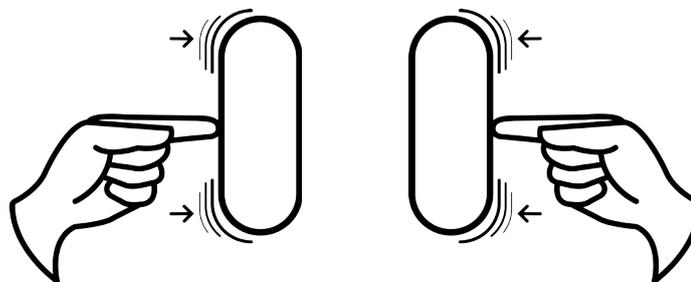
スキンに圧力を加えると、トップとボトムへの圧力配分が適切に行われます。このことにより、2つのシフティングを高い精度で扱い、ブレンドすることが可能性です。

このことにより、トップからボトムまでを滑らかにスライドする奏法から、上端または下端を叩くパーカッシブな奏法等を可能にします。



レフトとライトシフティングに関しては、トップとボトムシフティングのように同時に扱う構造ではありません。横方向の動きに対し、Touchéのセンサーはどちらか一方のみに反応します。これらのシフティングは、ビブラート等のモジュレーションやピッチベンドの操作に適しています。

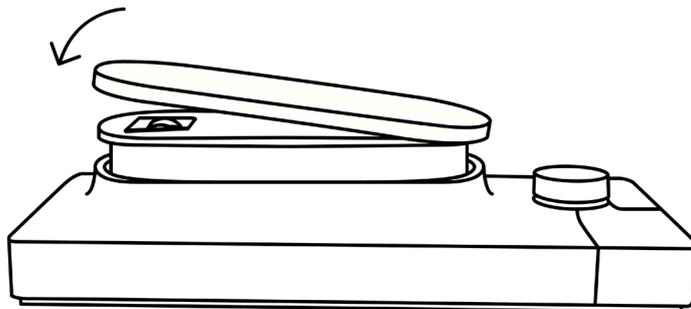
4つのシフティングは、感度調節が可能です。詳細は感度調節の項目に記載しています。



スキン

Touché本体上部のタッチパネルを「スキン」と呼びます。スキンは、楽器として心地よい触感をもたらします。スキンを外すとその下にあるシリンダーとスライダーにアクセスすることができます。

スキンを装着する際には、正しいポジションにしっかりと収まるよう気をつけましょう。

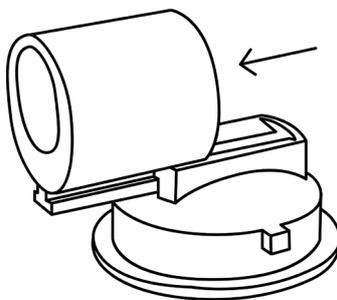


シリンダー

シリンダーはトップとボトムシフティングで使用します。Touchéのプレッシャーフィードバックに反応します。

1つはスキンの下に、もう1つはTouchéの底面にある、小さなフタの中にあります。

どちらのシリンダーも取り付けレールからスライドして外すことが可能です。損傷の元になりますので、外す際は無理に引っ張らないで下さい。



スライダー

スキンの下に、レフト/ライトシフティングにおける物理的な機構の揺れを調整するスライダーを見つけることが可能です。

- スライダーをボトムポジションに設定した場合、レフト/ライトシフティングの操作感がゆるくなります。
- スライダーをアッパーポジションに設定した場合、レフト/ライトシフティングの操作感がタイトになります。

詳細は、感度調整の項目に記載しています。

コントロール

ボタン

Touchéを単体(スタンドアロン)で使用する場合、内蔵メモリーのプリセット切り替えに左右のボタンを使用します。

Touchéの内蔵メモリーは、6バンク x 4プリセット、合計24プリセットを扱います。バンク毎に色が用意され、LEDでそれを示し、LEDの点灯数で、プリセットを示します。(詳細はメモリービューの項目に記載しています。)

- 右ボタンを押すことで、現在のバンク内の次のプリセットに切り替わります。
- 現在のバンク内最後のプリセットでさらに右ボタンを押すと、次のバンクの最初のプリセットに切り替わります。
- 左ボタンを押すことで、現在のバンク内の前のプリセットに切り替わります。
- 現在のバンク内最初のプリセットでさらに左ボタンを押すと、前のバンクの最後のプリセットに切り替わります。

スレーブモード(Liéと接続している場合)でも、この2つのボタンでLiéのプリセット切り替えに使用できます。

また、スレーブモードでは、この2つのボタンで、MIDI CCを扱うことも可能です:

- 左ボタン:CC 80
- 右ボタン:CC 81

エンコーダー

エンコーダーはTouchéの感度調整に使用します。右に回すと感度は高くなり、左に回すと低感度になります。感度は8ステップで調整でき、エンコーダー周りの4つのLEDでこの状態を示します。(詳細は感度調整の項目に記載しています。)

エンコーダーはまた、"フリーズ"機能を操ることが可能です。エンコーダーを押すことで、4つのシフティング操作の状態をフリーズ(キープ)します。この際、4つのLEDが点滅し、Touchéがフリーズモードであることを示します。フリーズモードに入った瞬間のコントロール情報は繰り返し出力されるため、Touchéから手を離しても効果は持続します。特定のパラメーター効果を演出する際に便利でしょう。フリーズを解除するには、再度エンコーダーを押します。

LED

LEDは、様々な情報を示します:

- **白色**でLEDが点灯している場合は感度レベルを示します。最大感度に設定した場合、全てのLEDが明るく点灯します。スレーブモード時では常に感度を表示します。
- **青、緑、黄、橙、赤、紫色**で点灯している場合、Touchéのスタンドアロンモードで内蔵メモリーのバンクとプリセットを示します(内蔵メモリを持たないTouché SEにこの仕様はありません)。
- **ピンク色**で点灯をしている場合、ブートルoaderモードであることを示します。新しいファームウェアのインストール中にこの状態になります。
- **点滅**している場合、Touchéがフリーズモードであることを示します。エンコーダーを押すことで、フリーズ機能のオン/オフを切り替えます。

接続

ポート

USB

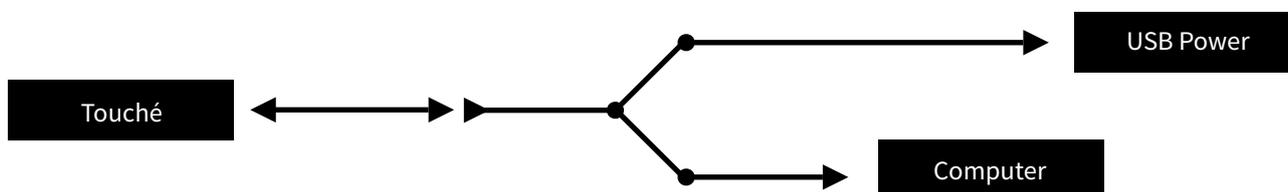
TouchéはUSBを通じた電源供給で駆動します(コンピューターに接続することで電源供給されます)。Touchéを単体(スタンドアローン)で使用する場合、スマートフォン等のUSB電源アダプターを介しても十分な電源供給がなされます。

基本的には付属のUSBケーブルを使った接続をサポートしますが、市販のUSBケーブルを使用される場合、2m以下でケーブルの印字に"24/2C"、"24AWGX2C"、"AWG24X2C"のいずれかが記載されているものを推奨します。

グラウンドループ (Touché SE において、この記述は関係ありません。)

グラウンドループはデバイスを接続した際に異なる電源供給から発生する不要なバックグラウンドノイズやハムを指します。

このような状況に遭遇した場合、グラウンドループ対策した電源と接続することで解消します。接続の概念は以下の通りです：



この場合、片方がメスコネクター (Touché側)、もう片方が二股のオスコネクターのUSBケーブルを使用し、Touchéへの電源供給を分離します。

二股の先は、片方がコンピューター (データ転送用)、もう片方がUSB電源アダプターと接続します。

MIDI (Touché SE において、この記述は関係ありません。)

TouchéはMIDI INとMIDI OUT/THRUポートを装備します。付属のアダプター (5ピンDIN - 1/8") で標準のMIDIケーブルで他のMIDIデバイスと接続します。

CV (Touché SE において、この記述は関係ありません。)

Touchéは最大4つまでのCV出力に対応しています。各CV出力は、最大-10/+10Vの範囲で出力レンジを設定可能です。(詳細はCV出力の項目に記載しています。)

データ

入力

TouchéのMIDI入力ソースは次の通りです：

- USBポート
- MIDI入力 (Touché SE には備わっていません)

いずれのソースからのMIDIデータも、MIDI出力 (MIDIマージ) とUSBポートに出力されます。

出力

Touchéがスレーブモードの時、USBポートから以下のMIDI CCが常に出力され、Liéをコントロールします：

- トップシフティング: CC17
- ボトムシフティング: CC16
- レフトシフティング: CC18
- ライトシフティング: CC19

スレーブモード時のMIDIとCV出力は、Liéで選択したハードウェアプリセットの設定に従います*。詳細は、ハードウェアプリセットの項目に記載しています。

スタンドアロンモードの場合、MIDI、USB、CV出力の設定は、選択された内蔵メモリープリセットに従います*。内蔵メモリーについてはメモリービューの項目に記載しています。

*Touché SE に内蔵メモリーはありません。

Lié

概要

Liéとは

Liéはシンプルながらもパワフルなソフトウェアで、明快なワークフローをもたらします。Liéはプラグインホストとして動作し、VST/AU互換のDAW内、もしくはスタンドアロンで動作します。

Liéには先進的な機能が豊富に装備されています。感度カーブ、スピードマッピング、最大/最小値設定、CV電圧設定*、MIDI CC設定*、内蔵メモリーマネージャー*、プリセットリコール、タグ付け等...Touchéをより高度に扱えます。

*Touché SE にこれらの機能は備わっていません。

また、Liéには特別に用意されたシンセサウンドやマッピングが用意されています。加えて、ご愛用の音源のための設定ツールとしても機能します。

Lié付属のシンセサウンドは、UVI社とのパートナーシップによって作成されています。これらの音色は、Liéのインストールパッケージに含まれているUVI Workstationで演奏することができます。

システム条件

Liéの最低システム条件

- CPU : Intel Core i5 1.4 GHz 以上
- RAM : 8 GB 以上
- OS : macOS 10.10 以降、もしくは Windows 10 (64ビット版)

UVI Workstationの最低システム条件

- CPU : Intel Core i5 2.5 GHz 以上
- RAM : 8 GB 以上
- ハードドライブ : 1 GB 以上の空き容量

プラグイン形式

Liéは、スタンドアロンアプリとして、またDAW内のVST/AUインストゥルメントとしてお使い頂けます。詳細は設定の項目に記載しています。

インターフェイス



Liéは上図のように6つのパートに分割されています：

1. **メニュー**：プリセットの作成と保存、そして設定へのアクセスを行います。
2. **ブラウザ**：プリセットライブラリーの表示とアクセスを行います。
3. **スロットセンター**：Touchéのシフティングとシンセのパラメーターを紐付ける設定を行います。
4. **スコープ**：Touchéの操作と連動した表示、および感度カーブエディターにアクセスします。
5. **オプション**：アプリのAudio & MIDI設定を開きます（スタンドアロンでLiéを起動した場合に表示されます）。
6. **仮想キーボード**：クリックしてサウンドの確認ができます（スタンドアロンでLiéを起動した場合に表示されます）。

メニュー

画面左上のアイコン をクリックすることで、以下のメニューファンクションが表示されます：

- **New Plugin Preset**：ソフトシンセ用の空プリセットを作成します。
- **New Hardware Preset (Touché SE では表示されません)**：ハードウェア用の空プリセットを作成します。
- **Save Preset**：プリセットを上書き保存します。
- **Save As Preset**：名前を付けてプリセットを保存します。
- **Touché / Touché SE (接続したモデルに応じて表示メニューが異なります)**：
 - ・ Touché：メモリービューが表示されます / Touché SE：MIDIセットアップが表示されます。
 - ・ Install firmware：ファームウェアのインストールを行います。
 - ・ Firmware version：接続されている Touché / Touché SE 本体のファームウェアバージョンを表示します。
- **Preset Library**：
 - ・ Open Preset folder：Finder (Mac) またはエクスプローラ (Win) にプリセットフォルダを表示します。
 - ・ Refresh Preset list：Liéのブラウザを更新します。

- **Preset Manager**: プラグインマネージャーを開き、Lié内で使いたいVSTインストゥルメントのリストを表示します。
- **Settings**: Liéの設定画面を開きます。
 - Display virtual keyboard : 仮想キーボードの表示/非表示を選択します。
 - Copy the logfiles to the desktop : “expressiveeLogfile.zip”というシステムレポートファイルをデスクトップに作成します。
 - Select device : 起動中のLiéとリンクする Touché (SE) のコントロールポートを選択します。
- **Window Resize**: Lié をディスプレイの解像度に合わせて拡大します。

プラグインマネージャー(Plugin Manager)

ここでは、VSTプラグインをLiéで使用するためのスキャンを行います。スキャンを行うには、ウィンドウ下部にある “Options” をクリックし、“Scan for new or updated VST plug-ins” を選択します。

Name	Format	Category	Manufacturer
Kontakt	VST	Synth	Native Instruments GmbH
Lie	VST	Synth	Expressive
Maschine 2	VST	Synth	Native Instruments GmbH
Massive	VST	Synth	Native Instruments GmbH
Matrix-12 V2	VST	Synth	Arturia
Mellotron V	VST	Synth	Arturia
Mini V3	VST	Synth	Arturia
Modular V3	VST	Synth	Arturia
Omnisphere	VST	Synth	Spectrasonics
Padshop	VST	Synth	Steinberg Media Technologies
Piano V2	VST	Synth	Arturia
Pianoeq 5 (64-bit)	VST	Synth	Modartt
Pigments	VST	Synth	Arturia
Prophet V3	VST	Synth	Arturia
Reaktor 6	VST	Synth	Native Instruments GmbH
Reaktor5 16out	VST	Synth	Native Instruments GmbH
Reaktor5	VST	Synth	Native Instruments GmbH
Retrologue	VST	Synth	Steinberg Media Technologies
SEM V2	VST	Synth	Arturia
Solina V2	VST	Synth	Arturia
Spark	VST	Synth	Arturia
Spark	VST	Synth	Arturia
Stage-73 V	VST	Synth	Arturia
StylusRMX	VST	Synth	Spectrasonics
StylusRMX	VST	Synth	Spectrasonics
Synclavier V	VST	Synth	Arturia
Synthi V	VST	Synth	Arturia
Trillian	VST	Synth	Spectrasonics
UVIWorkstationVSTx64	VST	Synth	UVI
VOX Continental V2	VST	Synth	Arturia
Vienna Ensemble Pro Event In...	VST	Synth	VSL
Vienna Ensemble Pro Surround...	VST	Synth	VSL
Vienna Ensemble Pro x64	VST	Synth	VSL
Wurlli V2	VST	Synth	Arturia

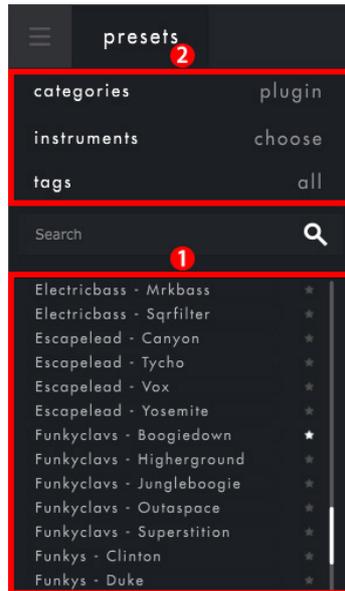
Options...

VSTプラグインをスキャンするフォルダを指定できるようになります。指定したフォルダに目的のVSTプラグインが含まれていない場合は、「+」アイコンをクリックすることでカスタムフォルダを選択することができます。

フォルダの指定ができれば、「Scan」ボタンをクリックしてください。スキャンには少し時間がかかる場合があります。スキャンが完了すると、認識されたすべてのVSTプラグインのリストが表示されます。なお、Liéは、VSTインストゥルメントのみをホストすることができ、VSTエフェクトプラグインをホストすることはできません。

赤字で表示されるプラグインは、Liéとの互換性に問題がある可能性があります。“Options” の “Force-scan...” を使って強制的にスキャンを行うことも可能ですが、この場合、お使いのDAWの挙動が不安定になる可能性があります。

ブラウザ (Browser)



1. プリセットリスト

プリセットフォルダー内の全プリセットがリスト表示されます。プリセット名を右クリックすると名称変更 (Rename) と削除 (Delete) が行えます。

2. フィルターとタグ

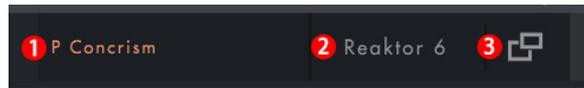
システムフィルターとタグを活用することで、ブラウザー上のプリセットを絞り込むことができます。

- **Categories:** プリセットのカテゴリー (Hardware/Plugin) を選びます。Touche SE では “Plugin” とのみ表示され、ハードウェアを選択することはできません。
- **Instruments:** リストからインストゥルメント (音源) を選択すると、そのインストゥルメントのプリセットのみが表示されま。再度インストゥルメントをクリックすると、フィルターがリセットされます。
- **Tags:** プリセットに付けられたタグを利用して、音色の種類で表示を絞り込めます。タグは複数を選択することが可能です。例えば、BASSとBRASSの2つのタグが選択されている場合、ベースとブラスのタグが付けられたプリセットのみが表示されます。プリセットに関連付けられたタグの変更は、Menu -> Save as Preset から行えます。

スロットセンター (Slot Center)

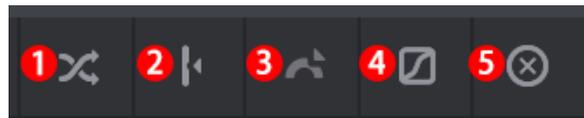
Liéのスロットセンターには8つのスロットが用意されています。Touchéで4軸(トップ、ボトム、レフト、ライト)のシフティングが行われた際に、音源のどのパラメーターがどれくらい影響を受けるかをここで定義します。

プリセットとプラグインのフィールド



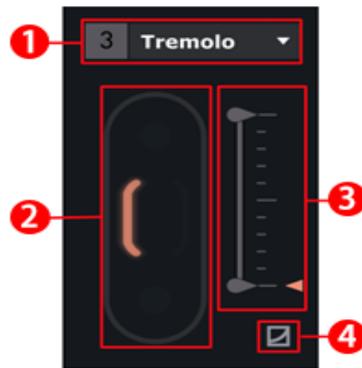
1. **プリセット名**: 現在読み込まれているLiéのプリセット名が表示されます。
2. **ホスト中のプラグイン名**: Liéでホスト中のプラグイン名が表示されます。クリックすると、他のインストゥルメントに切り替えることができます。
3. **インストゥルメントビュー**: ホスト中のプラグインのインターフェイスを表示します。Touchéでハードウェアプリセットを呼び出している場合は、そのプリセットのMIDIセッティングパネルにアクセスすることができます。

ツールバー



1. **ランダム割り当て**: 各スロットの設定をランダムに変更します。
2. **オートセット**: ホスト中のプラグインのパラメーターの現在値に応じて、シフティングに関する最小値と最大値を自動設定します。
3. **ピッチバンドボタン**: このボタンが点灯している場合、Touché (SE) の横方向のシフティングによって、ピッチバンドメッセージを送信します。スキンを右に動かすと音程が上がり、左に動かすと音程が下がります。バンドレンジは、音源側の設定に依存します。なお、ピッチバンドはMIDIパラメータであるため、TouchéのCV出力に影響を与えることはありません。
4. **カーブ表示**: 8つのスロットの感度カーブを一度に表示します。
5. **クリア**: 全てのカーブと割り当てをリセットします。現在の設定を保持したい場合は、先に進む前にプリセットとして保存を行ってください。

スロット



1. **パラメーター選択**: Touchéで操作する音源のパラメーターを選択します。
2. **シフティング設定**: パラメーターを操作するシフティングの方向を設定します。
3. **最大値と最小値**: Touché (SE) でコントロールするパラメーターの最小値と最大値を設定します。
4. **カーブ設定**: このボタンをクリックすると、感度カーブエディターを開きます。デフォルトではリニアカーブです。他のカーブに変更した場合、ボタンが点灯表示でそのことを示します。

インストールメントビュー

パラメーターのスロット設定は、各プラグインが持つ本来の画面を開いて行うことも可能です。  ボタンをクリックすることでホスト中のプラグイン画面が開き、ウィンドウ上端には以下のような表示があります。



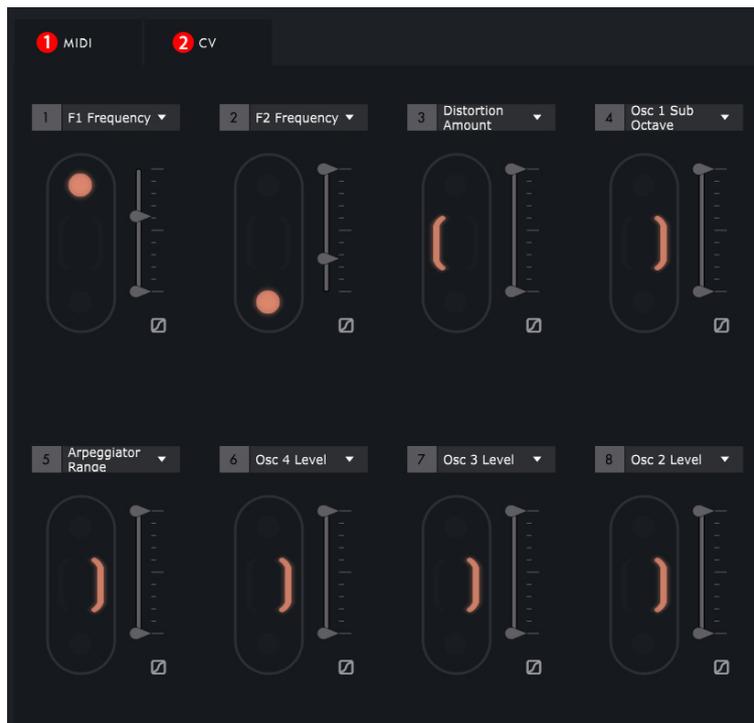
8つの番号は各スロットを表しています。任意の番号をクリックし、連動するシンセパラメーターのノブやスライダーを動かすことで、当該するスロットに音源のパラメーターを割り当てることができます。



“SPEEDMAPPING (スピードマッピング)” モードをオンにすれば、音源のパラメーターを少し動かすことで、8つのスロットへ順番に割り当てを行うことが可能です。

割り当ての解除は、画面の SPEEDMAPPING ボタンを再度クリックします。

ハードウェアプリセットの設定 (Touché SE にこの設定はありません)



1. MIDIページ

MIDIページのスロットセンターには、プラグインプリセットモード時と同様に8つのスロットが表示されますが、ここではプラグインのパラメーターではなく、ハードウェアシンセサイザーのMIDI CCを選択します。従って、この設定を適切に行うには、お使いのハードウェアシンセサイザーのMIDI CCとパラメーターの関係を把握しておく必要があります。

この設定をよりスムーズにするため、Expressive E ではいくつかのハードウェア用プリセットをご用意しています。これらのプリセットを用いると、MIDI CC欄に実際のパラメーター名が表示されるので、プラグインモードと同じ感覚で設定が行えます。

MIDIハードウェアインストールメントビュー

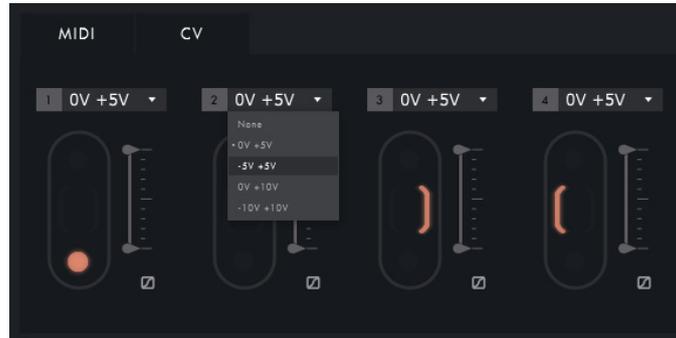
MIDIページで  ボタンをクリックすると、MIDIハードウェアインストールメントビューが開きます。ここでは、ハードウェアシンセサイザーのためのMIDIチャンネルやバンク、プログラムチェンジの設定が行えます。



これらを設定することによって、Touchéでプリセットを切り替えた際に、設定されたMIDIチャンネルを通じ、ハードウェアシンセサイザーに音色を切り替えるバンク、プログラムチェンジ情報を送信します。

2. CVページ

CVページでは、4つのスロットが表示されます。これらはTouchéに備わる4つのCV出力に対応しています。



ここでは、スロットごとにCV電圧のレンジが設定できます。設定項目は次の通りです：

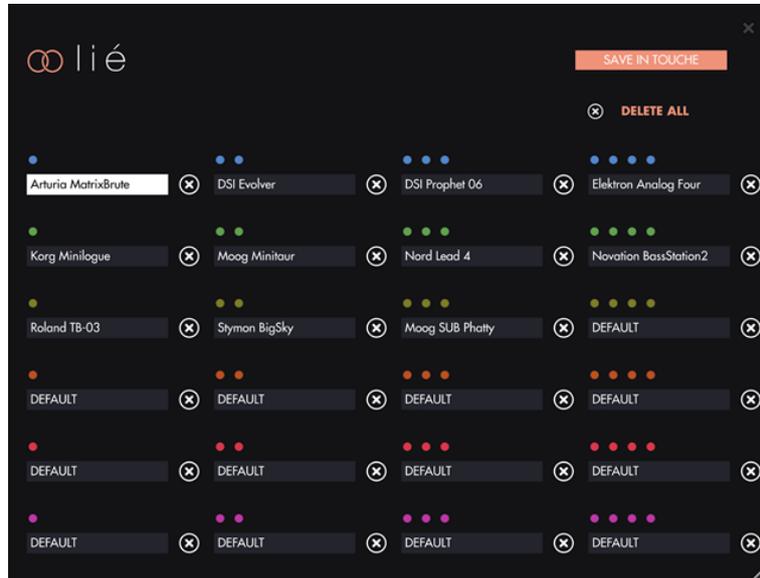
- 0V +5V
- -5V +5V
- 0V +10V
- -10V +10V

レンジを選択したら、実際に接続する機器や用途に合わせてmin/max スライダーで最大値と最小値を調整します。例えば、細かなピッチコントロールによるビブラート効果を狙う場合等に便利でしょう。

メモレビュー (Touché SE にこの設定はありません)

メモレビューは、設定を行ったハードウェアプリセットをTouché本体に保存するための画面です。この作業を行っておけば、コンピューターを用いることなく、スタンドアロンでTouchéをハードウェアシンセサイザーとともに使うことができます。

メモレビューを開くには、メニューから [Touché] > [Memory View] を選択します。



Touchéの内蔵メモリーを表す24のスロット(6バンク x 4プリセット)が開きます。画面上のドットの色はバンクを、ドットの数はプリセット番号を指します。この表示は、スタンドアロン (Liéに接続していない状態) で起動しているTouché本体においてプリセットを選択する際のLEDの色、および数と連動します。

プリセットの割り当ては、任意のスロットをクリックし、スロットを白色にした状態で、ブラウザに表示されている目的のハードウェアプリセット名をダブルクリックすることで行なえます。キャンセルする場合は、スロット右横の“×”をクリックします。全てのスロットをデフォルトに戻すには、画面上の“DELETE ALL”をクリックします。

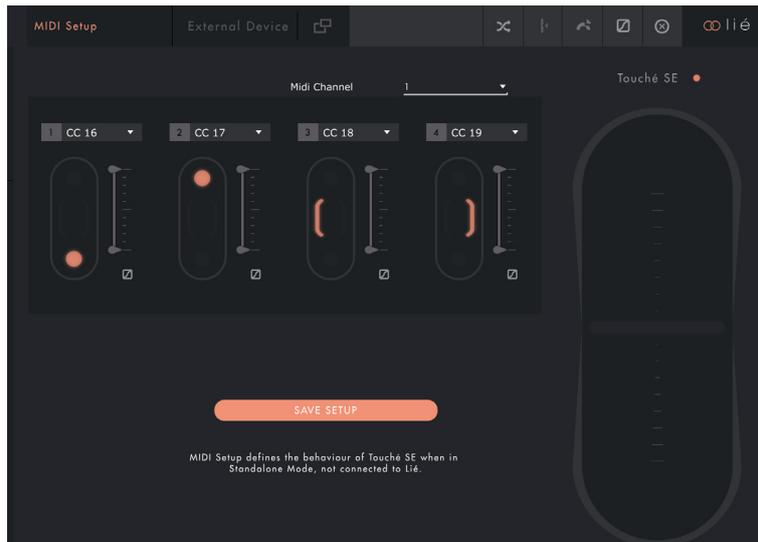
設定をTouchéの内蔵メモリーに転送するには、画面右上の“SAVE IN TOUCHÉ”ボタンをクリックします。転送が完了するまで接続が切断されないようご注意ください。

完了後、コンピューターからUSBケーブルを抜いてUSB電源アダプタに接続し、付属の5ピンDIN - 1/8"アダプターケーブルとMIDIケーブル (別売) を使ってTouchéのMIDI OUTポートとハードウェアシンセサイザーのMIDI INポートを接続します。以上でTouché本体のプリセット切り替えボタンから24のプリセットを呼び出すことができるようになります。

MIDIセットアップ (Touché にこの設定はありません)

MIDIセットアップでは、Touché SEがスタンドアロンモード時に送信するMIDIメッセージをカスタマイズすることができます。

MIDIセットアップを開くには、メニューから [TouchéSE] > [MIDI Setup] を選択します。



4つのスロットが表示され、MIDI CCパラメーターの選択、シフティング方向の割り当て、最小/最大値の設定、各スロットの感度カーブに関する設定が行なえます。あわせて、MIDIチャンネルの選択や、ピッチバンドボタンの設定も行っておきましょう。

設定に問題がなければ、“SAVE SETUP”をクリックし、設定をデバイスに転送します。

ここで行った設定は、Touché SE と Lié が接続されていない（つまり、Lié を起動していない状態、あるいはDAWのプロジェクトでLiéプラグインが使われていない）状態で有効になります。この際、Touché SEのLEDはピンク色に変わり、USB MIDI クラスに準拠したスタンドアロンモードになっていることを示します。

スコープ (Scope)

スコープは、シフティングの際に各方向軸へ加えた圧力をリアルタイムで表示します（この表示は、感度カーブエディターとの切り替えになります）。

接続インジケータ

スコープの上には、接続されているデバイス名 (Touché または Touché SE) と、接続インジケータが表示されます。

コンピューターにデバイスを接続しているにも関わらず、インジケータがグレーの場合、Touchéを再起動してみてください。本体のLED が消灯するまでエンコーダーを数秒間押してから、いずれかのボタンを押して再度起動させます。

それでも解決しない場合は、DAWのMIDI設定を確認して下さい。

DAWのMIDI設定では、Touchéの2つ目の入力ポート (MIDI IN2とも呼ばれます) が無効になっていることを確認し、メインの入力ポート (単に TOUCHE または TOUCHE_SEとも呼ばれます) だけをアクティブにして下さい。2つ目のポートは、Lié との通信専用として確保しておく必要があります。

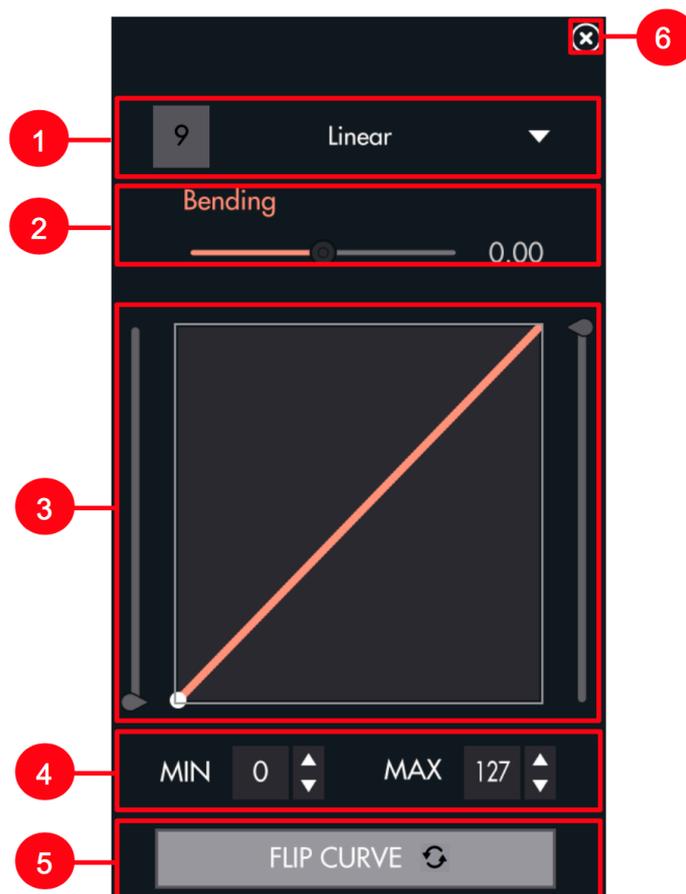


感度カーブエディター (Sensitive Curve Editor)

この画面は、スロット下の小さなカーブアイコンをクリックして表示します。

カーブを編集することで、異なるパラメータに対して最適な感度のレスポンスを持つことができ、複雑で有機的なサウンドを生み出すことができます。

画面の横軸は、Touchéへの圧力を示します。縦軸はパラメータ値の出力を示します。画面上の白点はTouchéの操作と連動して、カーブラインに沿って動きます。このことで、Touchéへの力配分と出力の関係を視覚的に捉えることが可能です。



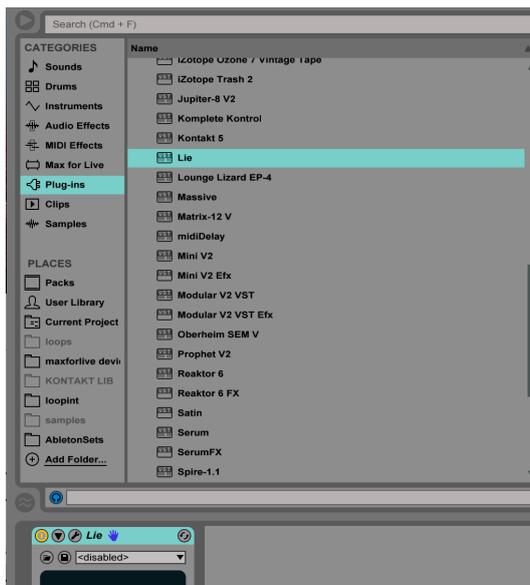
1. ドロップダウンメニュー：プリセットカーブの選択をします。
2. ベンディング (Bending)：カーブの曲線をスライダー操作で設定します。
3. カーブ表示と手書きエリア：カーブを表示します。画面上をマウスドラッグすることで、フリーハンドでカーブを描くことも可能です。
4. 最大/最小 (MAX/MIN)：適用範囲の微調整を行ないます。
5. カーブ反転 (FLIP CURVE)：カーブを反転させます。反転した場合、シフティング操作に対してパラメータは逆方向に動きます。
6. 閉じる：画面を閉じ、スコープ表示に戻ります。

ワークフロー

DAW設定

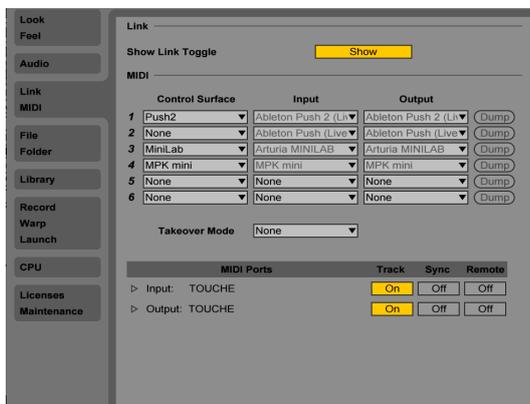
Ableton Live

LiéをAbleton Liveで扱う場合、Liéを新規のMIDIトラックに追加します。そして、トラックアームはオン、トラックのMIDI INは "All MIDI Input"に設定します。この状態で、Touché/Liéで演奏が行えます。



Touchéからの操作情報がLiéに届かない場合、トラックアームがオンになっていること、オーディオエンジンが有効になっていることを確認します。Live > 環境設定 > Audioで設定画面を開いて確認します。

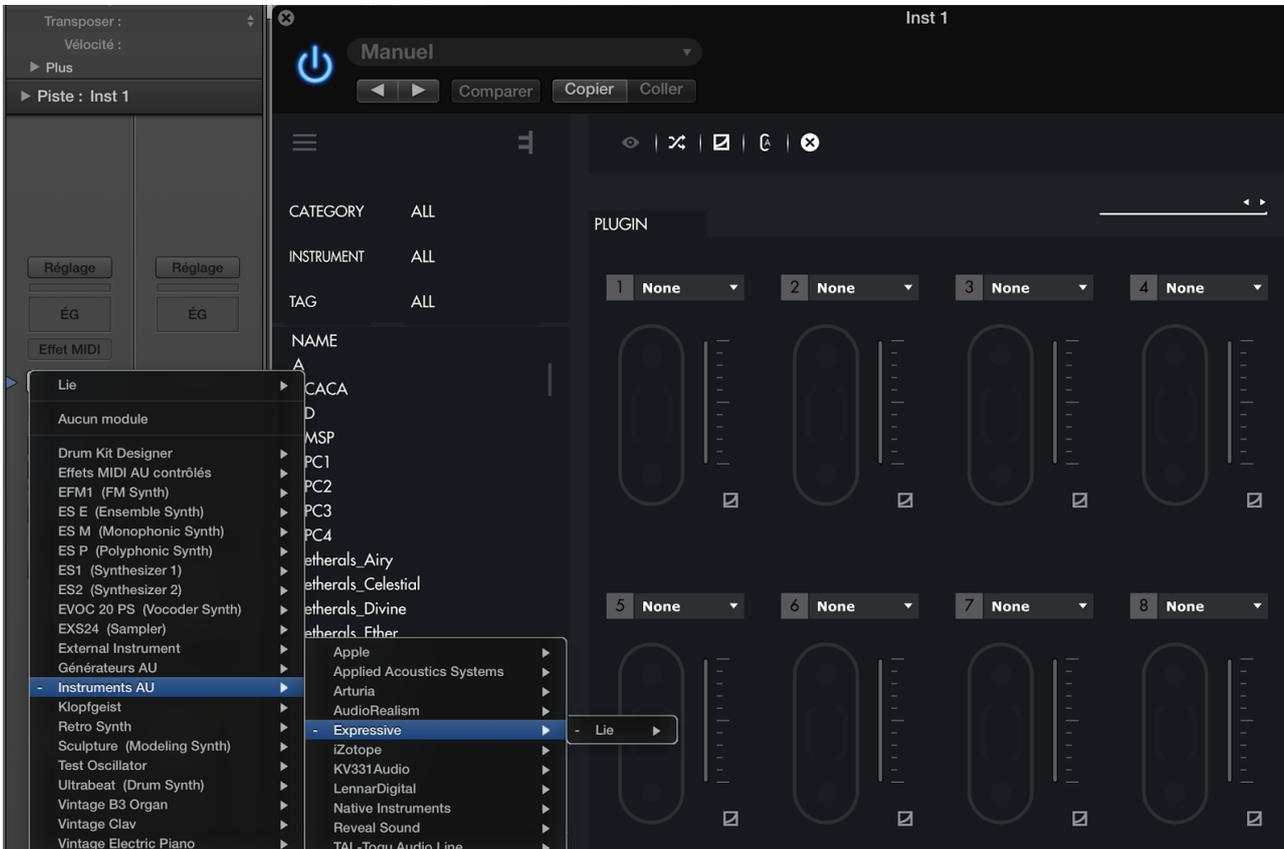
また、MIDI環境設定画面 (Live > 環境設定 > Link/MIDI) で、TouchéのMIDI入力の"トラック"の項目がオンになっていることも確認します。



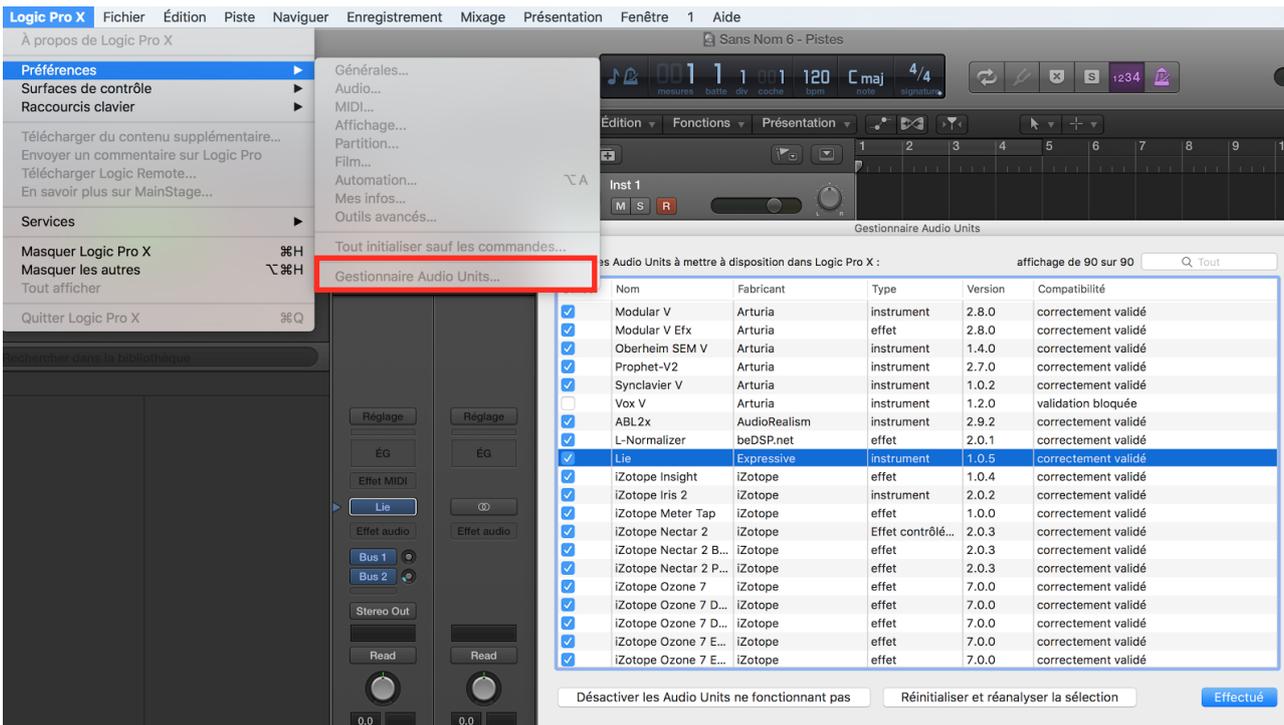
Liéがプラグインの一覧に表示されない場合、まず検索欄で"Lié"と入力し、検索結果に出てこない場合は、環境設定画面 (Live > 環境設定 > File/Folder) で、Liveのプラグイン設定が正しいかどうかを確認します。

Logic Pro

LiéをLogic Proで扱う場合、Liéを新規のソフトウェア音源トラックに追加します。そして、トラックアームはオン、トラックのMIDIチャンネルは"すべて"に設定します。この状態で、Touché/Liéで演奏が行えます。

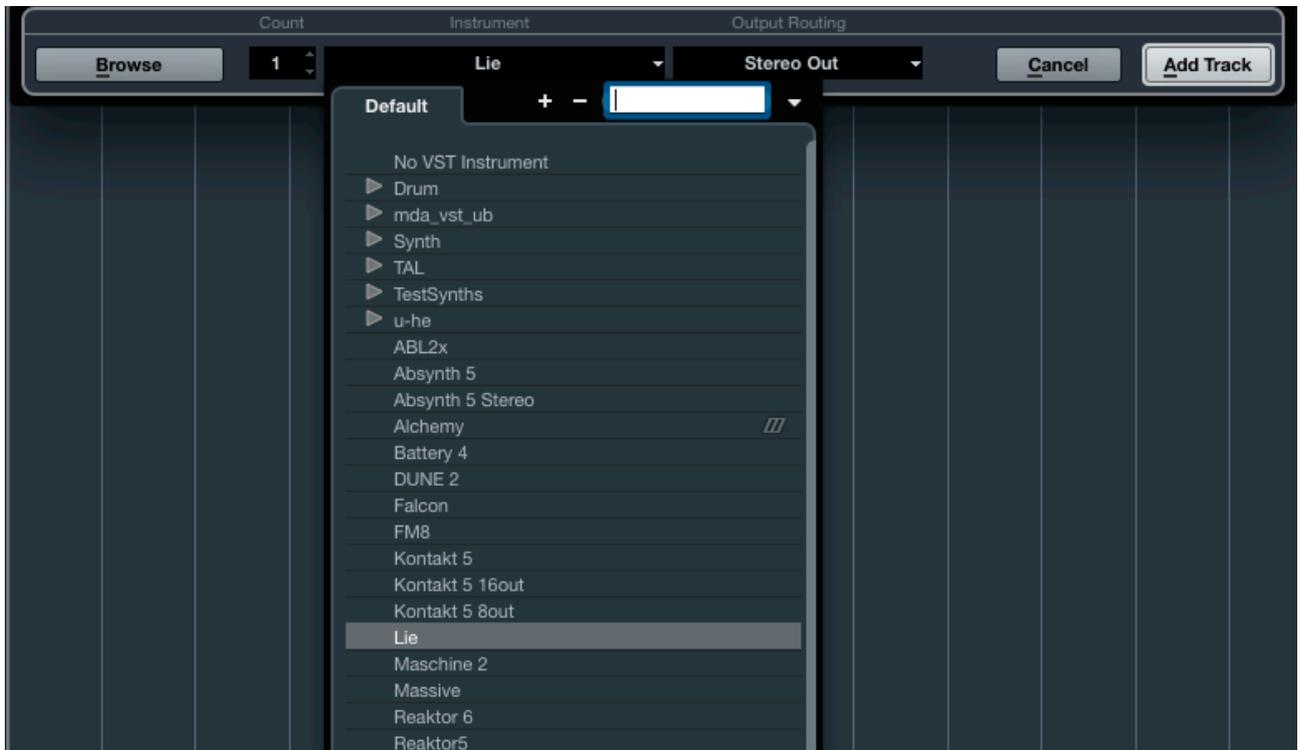


Liéがプラグインとして見つからない場合は、Logic Pro X > 環境設定 > プラグインマネージャー...で確認します。



Cubase

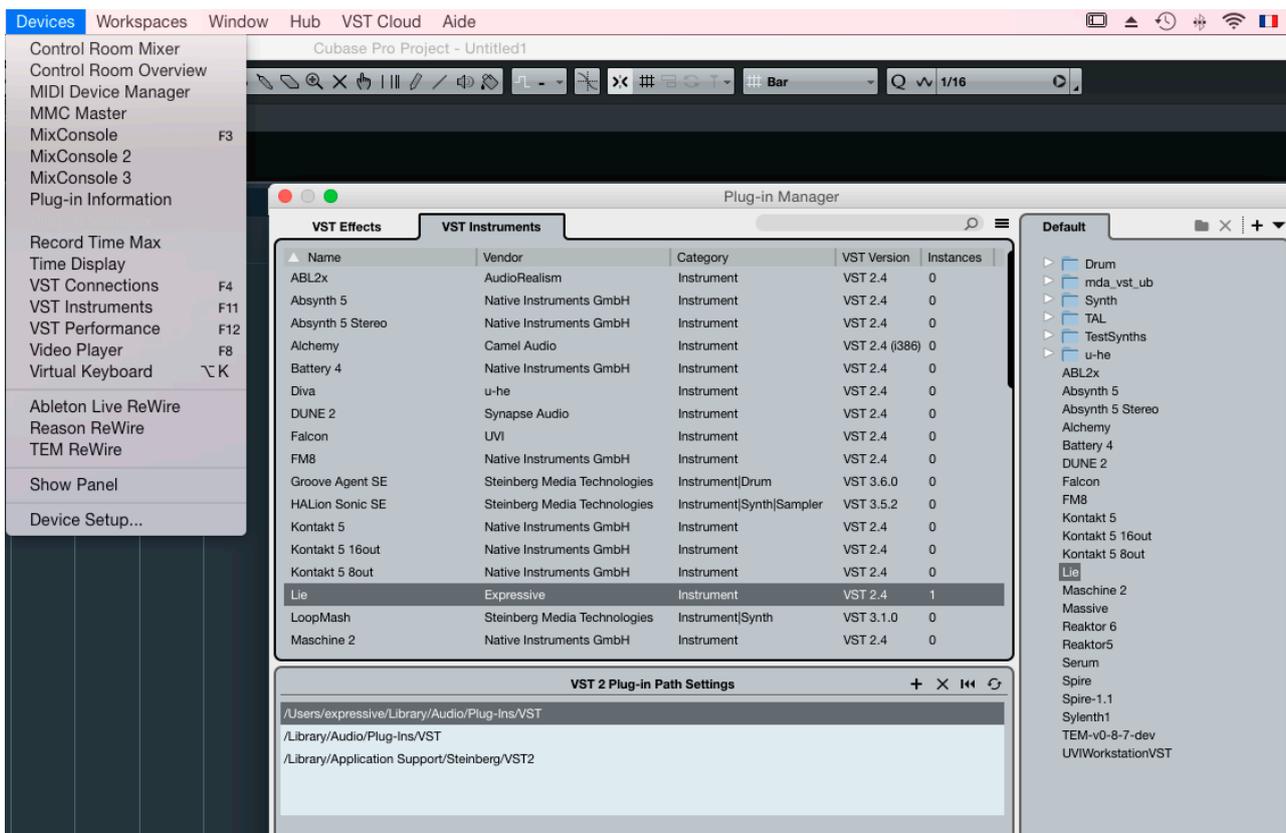
LiéをCubaseで扱う場合、Liéを新規のインストゥルメントトラックに追加します。



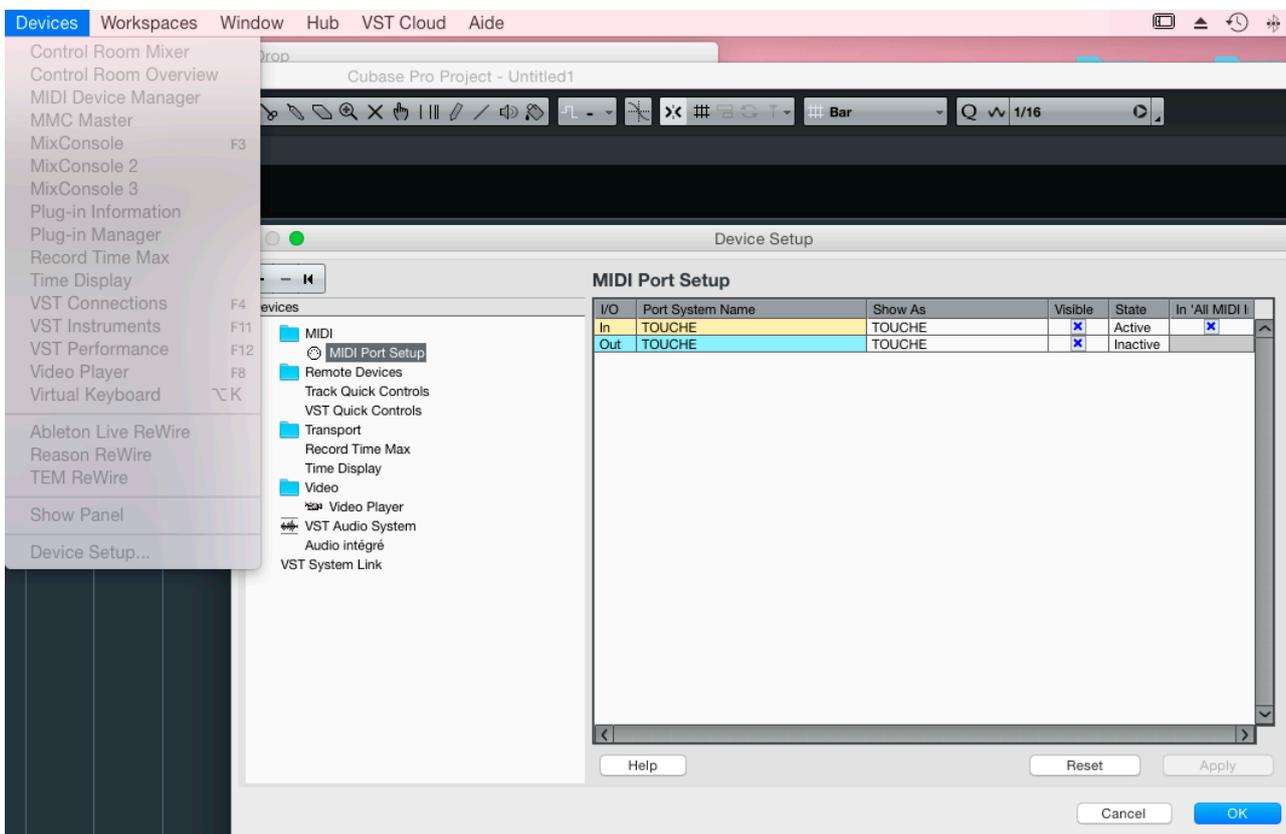
そしてトラックアームはオン、トラックのMIDI入力は"All MIDI Inputs"に設定します。これでTouché/Liéで演奏が行えます。



Liéがプラグインとして見つからない場合は、デバイス > プラグインマネージャーで確認します。

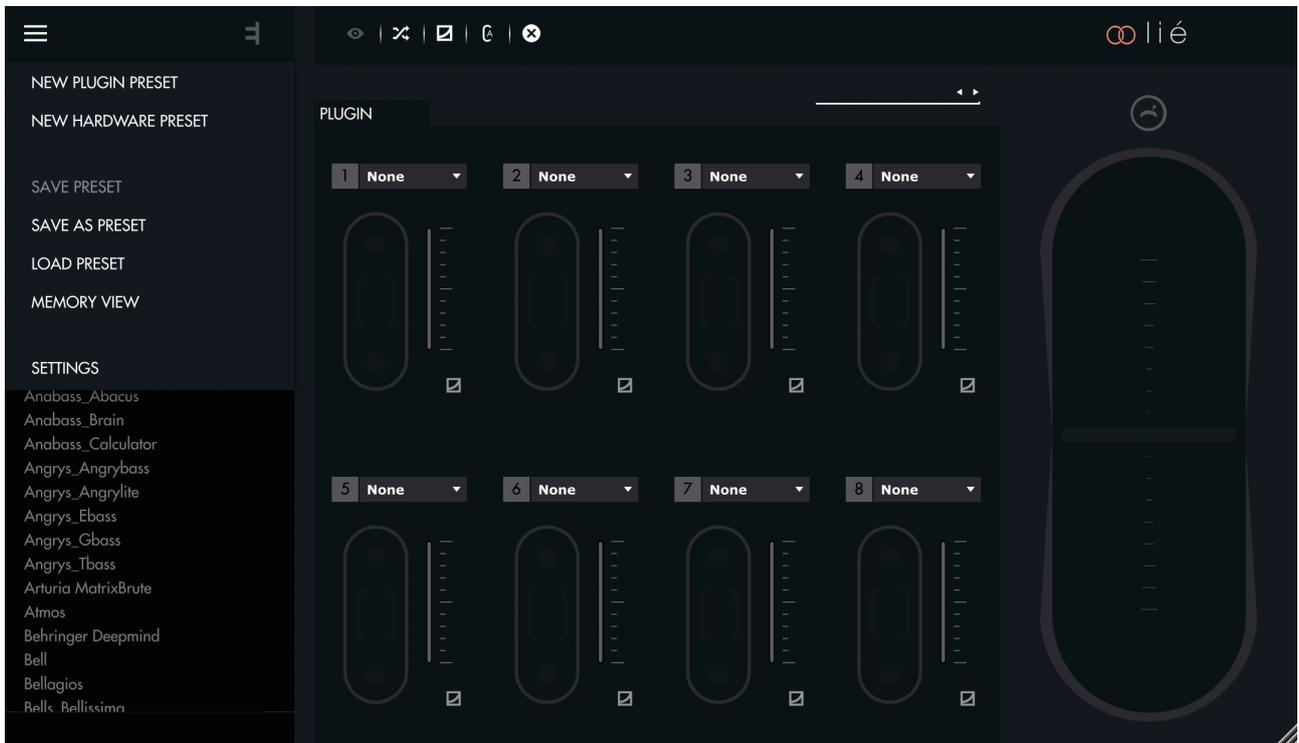


Touchéからの操作情報がLiéに届かない場合、トラックアームがオンになっていること、TouchéのMIDI入力の有効になっていることを確認します。デバイス > デバイス設定 > MIDI > MIDIポート設定で確認します。("X"が有効)

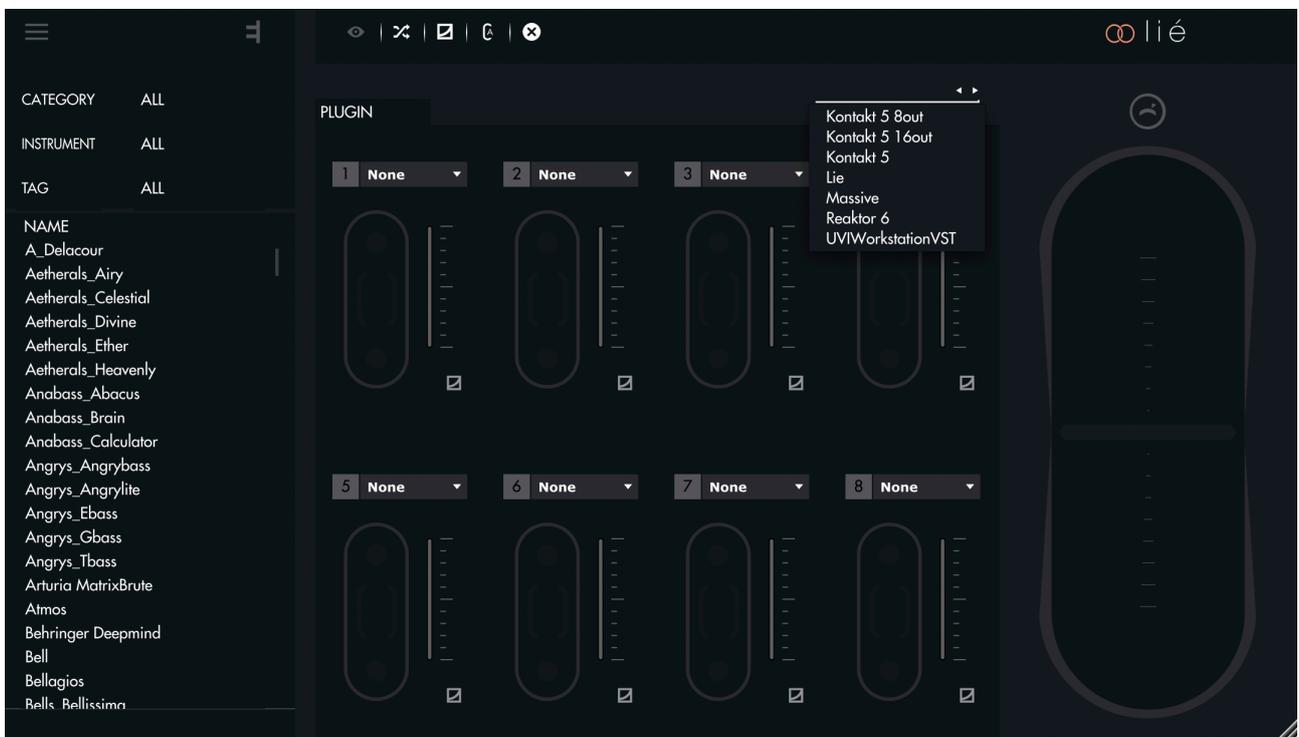


プリセットの作成

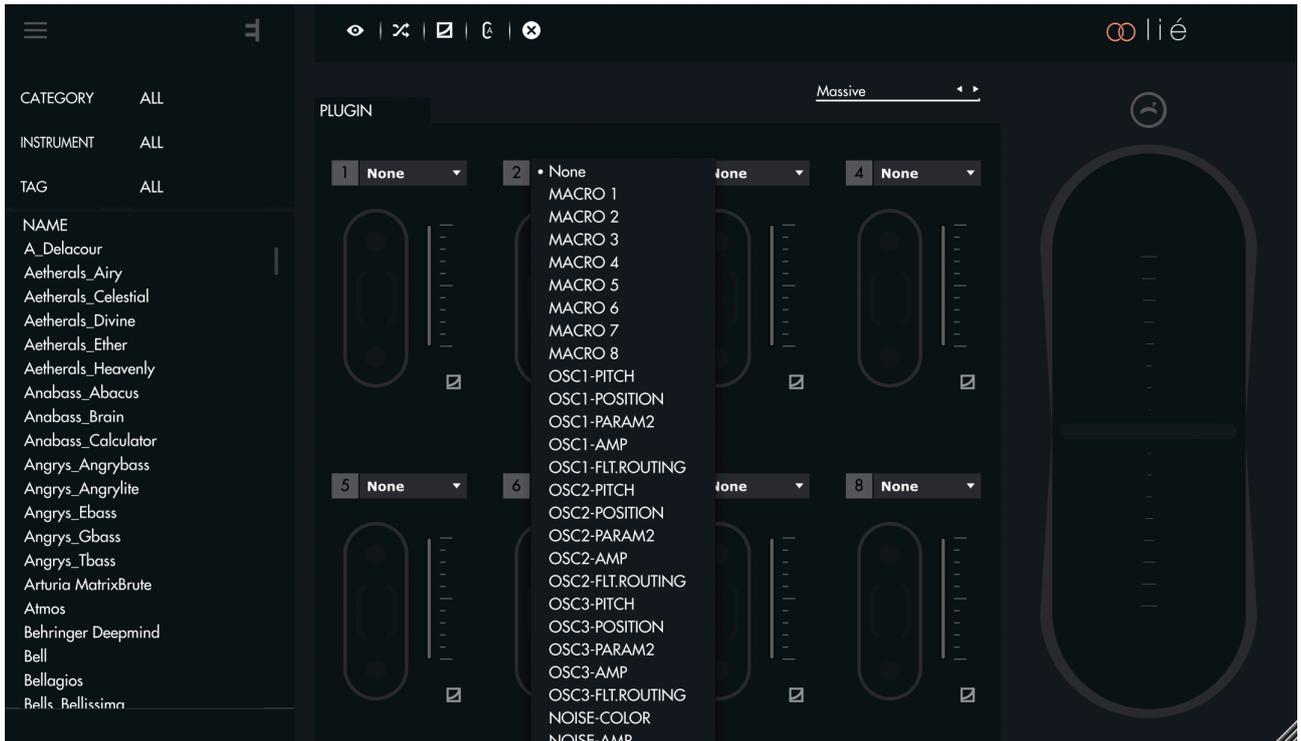
1. メニューから"NEW PLUGIN PRESET"をクリックします。



2. プラグインを選びます。



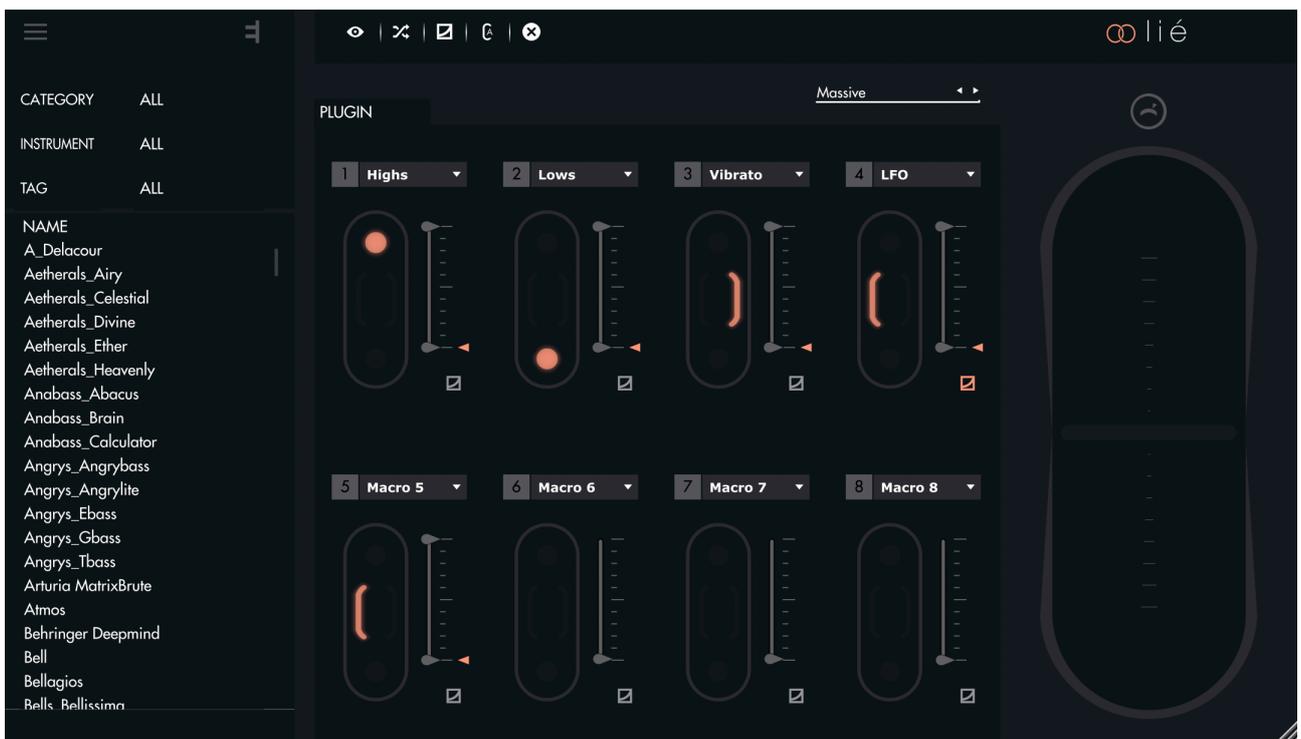
3. スロットのドロップダウンメニューからパラメーターを選択します。



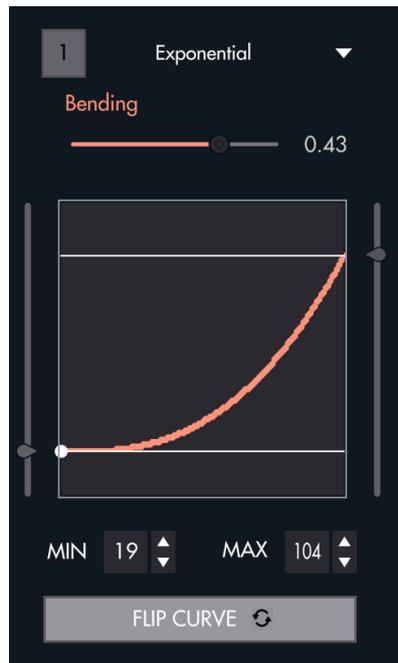
4. あるいは、インストゥルメントビューで、ツールバーに用意された割り当て機能で設定を行います。



5. スロットごとにパラメーターシフティングを設定します。



6. 作成したプリセットを演奏し、必要に応じて、感度の調整や最大/最小値を設定します。



プリセットの設定が完了したら、メニューから"SAVE AS PRESET"で保存します。

感度の調整

TouchéとLiéは、以下の方法によって演奏に適した感度調整が行えるよう設計されています (Touché本体の感度は、キャリブレーションの影響を受けます。Touchéは電源投入のたびにセルフキャリブレーションを行います)。

パラメーター

Liéの感度カーブはスロットごとに調整することが可能です。これにより、パラメーターごとに異なるレスポンスを与えることが可能で、複雑で豊かな変化、表現をもたらします。

トップとボトムシフティング

トップとボトムシフティングの感度は、Touché本体のエンコーダーで調整できます。

感度を上げた場合、より少ない力でピーク値に達します。下げた場合はより強い操作が必要です。高感度設定は繊細かつソフトな演奏時に適し、低感度設定はラフでパーカッシブな演奏時に適しているでしょう。

レフトとライトシフティング

レストとライトシフティングに関わる機構部分の固さ調整は、スキン下のスライダーで行います。ボトム側に設定すると、緩い感じになり、トップ側に設定するとタイトになります。調整後は念のために左右ボタンを同時に長押しして、マニュアルでのキャリブレーションリセットを行って下さい。